



# FAS住まい新聞

発行責任者  
**福地建装**  
北斗市中野通 324  
Tel 0138-73-5558  
fax 0138-73-8460

## ～ オール電化住宅を再認識～

### 厳寒期の暖房を思考する

従前のオール電化住宅の熱源を供給し続けてきた深夜時間帯の電力は、その余剰量が殆どありません。つまり余った電力で温水を貯め、暖房熱を蓄熱する仕組みが成り立たなくなっています。現在は、原発の代わりに石油、ガス、石炭などの火力発電が主流となっており、ゆえに電力需要が少なくなると発電機を停止させることが容易となるのです。

つまり電力会社は、深夜時間帯に安価な電力を、高額な配電コストを掛けてまでも供給することが出来なくなっているのです。このような状況からみても電力供給は、深夜に限らず一日を均一的に電力を使用できる機器を推奨せざるを得なくなり、また社会的なニーズもそこにあります。

今後は原発稼働の如何を問わず、電気ヒーターで直接加熱する暖房機や温水器ではなく、エネルギー消費効率を何倍にも活用できるヒートポンプ暖房機や給湯機器が必須となるのでしょうか。しかし、厳寒地でのヒートポンプ機器は、多くの課題もクリアしなければなりません。

#### 外気から熱を汲み込むヒートポンプ

エアコンは、外気から熱を汲みあげる装置です。つまり電気ヒーターやガス、石油などを燃焼させ高熱を発生する暖房機ではありません。

エアコンは基本的に10程度の熱を外部から汲み取って室温にその10を加温する装置です。例えば室温が3だった時は、エアコン吹き出し温度が13となります。つまり室温3に10加温しただけなのです。

家の気密、断熱性能が高い場合は、室温が早い時間で吹き出し温度の13に近づき、10加温で23の吹き出し温度となり暖房空間が保持できます。

昨今は吹き出し温度が50以上のエアコンが普及し始めていますが、室内機の一部で空回りさせて10加温を繰り返し高温にしてから吹き出しています。エネルギー消費効率が悪く省エネになりません。

ところが室温が15を超えたあたりからエアコンのエネルギー消費効率は格段に良くなります。つまり、省エネ暖房には、家の気密、断熱性能を向上させることが不可欠となります。

エアコンは、室温が15程度になる過程でエネルギー消費効率が悪い状況で稼働します。気密、断熱性能の良い家の場合、室温が15以上になったら、電源OFFにせず自動稼働させた方が節電となります。

暖房だけではなく給湯においてもヒートポンプ給湯である「エコキュート」は、本州だけでなく寒冷地でも充分に使用できるようになりました。

### 電化住宅と原発問題を

#### 脱原発と反原発の大きな違い

世界唯一の被爆国である我国は、福島原発事故でその怖さを深刻に受け止めました。原発反対の心情は誰もが我身のように受け止めていることでしょう。

ところがこの反原発と脱原発とは全くその質が異なります。

単に反原発を唱えるだけでは脱原発の解決法を導けないでしょう。

「私達はこうにします。だから原発を止めてください」という代替案が不可欠なのです。なるほどと思うような代替案が提示できれば原発は必然的に無くなって行くこととなります。

どんな発電方法よりも原子力発電は設置コストが掛かり、何重もの複雑で厄介な安全管理を行わなければなりません。私達庶民が出来る代替案とは、自然エネルギー活用の太陽光、風力やその他の発電方法などではありません。

現況供給されている電力だけで生理的な我慢をすることなく上手に使用方法があります。一般生活に不可欠な電気は何処の家庭にも供給されています。

この電力を現在の半分以上の使用量で賄えるためのハードとソフトを備えることも重要な要素です。

ハードとは家の性能と使用する機器の整合性を極めることです。ソフトとは、貴重な電気エネルギーの使用方法が、他のどんなエネルギーよりも省エネに活用出来るという知識を持つことです。気の遠くなるような年月とコストが掛かる代替エネルギーの登場を待つまでもなく、私達庶民が出来ることを実践してこそ「脱原発」に説得力が生まれると云えそうです。

「ファースの家」は、快適空間で冷暖房費用を50%以上も削減できるハードを備えており、それを使いこなすソフトがあれば脱原発に大きく貢献します。今年初のFAS住まい新聞でしたが、今年も宜しくお願い致します。

著 福地脩悦

### 幸太の知恵袋

#### 生ゴミ袋の悪臭を消すには

台所の生ゴミ袋の臭いにおい、嫌なもんだねえ。でも、仕方ないよね。生ゴミ袋のにおいを簡単に消す、いい方法があるんだよ。知ってるかい？生ゴミ袋の中にね、お酢を少量かけるんだよ。それだけで、びっくりするくらい、においが消えてくれるよ。試してごらん。